

令和2年4月24日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

ただ今から、市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は3件です。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

昨日に引き続いての会見ですが、どうぞよろしくお願いいたします。今日もコロナ関連の話からさせていただきたいと思います。まずもって、市民の皆さんにお願いであります。静岡でも最前線で医療従事者の方々が一生懸命頑張ってくれております。皆さんでエールを送ってほしいということ、市長としてお願いしたいと思います。

というのは、全国的にも、今、感染拡大が止まらない状況、特に首都圏の情報というのがどうしても、キー局を中心にテレビ放送があつて、地方の方々にも東京の情報、とにかくスーパーにもこういう形で買い物に行ったほうがいいのか、自分が感染をしないという防御策をいろいろ報道をされているとなると、どうしても自分の身を守らなきゃいけないと思う気持ちになる。その中で、国内で医療に携わっているの方々に対して、大変差別的に扱われているという事例が、これもまた報道をされております。自分の身を守らなければいけないという気持ちは十分わかりますけども、一方で、昨日も申し上げました通り、静岡市民の皆さんは、連携、強力、そして支え合いということを大事にして、こんな時だからこそ、ぜひ医療従事者の皆さんに対して、社会が大きくエールを送る、そして包み込んでいくということをお願いしたいと思います。昨日、静岡病院の皆さんからも、実は医療従事者さん、その家族に対する偏見があるという事例の報告がありました。そういうご家庭のお子さんたちが、通園、通学を拒否されてしまっていると。だから子どものために医療の現場を離職するという事態にも発展していることを、大変心を痛めております。市民の安心、安全のために、日夜奮闘する医療従事者の心を折り、医療現場自体が崩壊しかねないという危機感も持っております。

私は、改めて新型コロナウイルスへの感染リスクと闘う全ての市民の皆さんに対して、心からの感謝と敬意、そしてエールを送りたいと思います。そして、市民一体となって、この闘いに立ち向かっていきたいと思いますので、ぜひ連携、協力、そして支え合いをお願いいたします。

不安に思っている市民の方々が多いということも事実であります。そこで静岡市は、なんでも相談窓口ということ、先週開かれた臨時議会で予算を認めていただいて、そして、今日12時から、これを開設します。広報課が特別に、報道機関の皆さまにも報道していただけるという願いを込めて、急遽、こんなフリップを作らせていただきましたので、ぜひ写真を撮っていただきたいと思います。

このダイヤルでは、風邪や発熱などの症状がある場合の相談はもちろんのこと、昨日発表した、休業要請や協力金に関する相談、そして経営や融資など事業者の支援に関する相談、さらには、公共施設の休館やイベントなどの中止に関する問い合わせ相談等々、ありとあらゆる相談になんでもワンストップで対応をする1次対応の電話番号であります。0570、08 の 0567、すなわち、ゼロ・コロナ、0567 であります。受付時間は、平日のみならず、土曜、日曜、そして祝日も、午前9時から午後

8時まで受け付けております。

まずは半年間、10月末までの開設を予定しておりますので、ぜひこのダイヤルを報道していただき、市民の皆さんの不安な気持ちを少しでも和らげるきっかけにしたいと思っておりますので、今日、12時より開設いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

そして、今日の話、三つともコロナに関連する話題でありますけれども、一つ目は、残念な報告であります。駿府ダービー、日本選手権競輪G I が、開催中止を余儀なくされました。来月5日から10日まで、静岡競輪場で誘致をし、開催を予定しておりました、第74回、日本選手権競輪につきまして、断腸の思いではありますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために中止をすることを、本日、正式に報告いたします。これまで競輪ファンの皆さんに楽しんでいただきたいという思いで、無観客開催はできないかと、現場の所長をはじめ、関係者一同、努力をしてくれておりましたが、無観客であっても、開催にあたってはどうしても参加選手の皆さんや、競輪関係の皆さんの移動を伴うことから、この先の感染拡大を左右する重要なこの局面においては、苦渋の開催中止の決断をしたところであります。開催を待ち望まれていました競輪ファンや皆さまには、大変残念なお知らせで申し訳ありませんが、この事態が収束しましたら、また静岡競輪、復活をいたします。その際は、多くの皆さまに再びご来場いただきますよう、お願いを申し上げます。

二つ目の話題は、水道料金改定の延期についてであります。これも2月の議会で議決をいただいて、値上げを予定しておりましたが、このような状況下であります。市民の皆さんに、新たな負担を、状況を求める状況ではないと判断いたしました。そこで、水道料金の値上げを、時期を、6月1日から10月1日へ、4カ月間、延期することを決断いたしました。この延期は、外出を自粛している不安な生活を強いられている市民の皆さんに向けた緊急の措置であります。議会で承認をいただいたばかりではありますが、今後は、もう一度、5月に補正予算案を提出し、議会の同意も求めてまいります。なお、上下水道局では、水道料金、下水道料金の支払いが困難となった利用者に対しては、納付猶予などの相談にも受け付けを引き続きしてまいりたいと思っております。安心して静岡の水をご利用いただきたいということをお願いいたします。

そして、三つ目の話題であります。静岡の水を使ってお茶を飲んでくださいという、これは大変、ピンチをチャンスだという気持ちで、経済局の所管課の職員を中心に、これからキャンペーンをしていこうという施策でありますので、ぜひお伝えをしたいと思います。今年のゴールデンウィークは、ステイホームウィーク、自宅にいながらして、ぜひお茶を飲んでいただきたいという願いを込めまして、ネーミングとして「#うちお茶」キャンペーンと名付けました。実は、新茶の初取引も中止になりましたし、恒例の八十八夜を前にした静岡駅前でのお茶娘さんたちの街頭キャンペーンも中止をされました。本当に、消費拡大のために、ここでさまざまなイベントやPRをしたいところではありますが、中止を余儀なくなりました。そこで、SNSを使って、そして、家にいる期間が多いんだから、その時にお茶を飲んでいただくというためのキャンペーンであります。

感染防止のため、自宅での時間を充実させるアイテムとして、改めてお茶の魅力を再認識していただきたい。市内のお茶の生産農家と茶商団体からなる静岡市茶業振興協議会と、市行政、連携をして「#うちお茶」キャンペーンの実施をいたします。このキャンペーンは、うちでお茶を飲んでいる

シーンとか、お茶とお茶うけ、あるいはお茶畑、お茶にまつわる写真や動画を、Twitter あるいはインスタグラムに「#うちお茶」と付けていただくことで、どなたでも情報発信できます。どなたでも簡単に参加をしてもらえます。ご存じの通り、お茶は免疫力を高める効果がありますので、その点で、皆さんの健康増進にもつながると言われております。また、自分を守らなきゃいけないという、先ほど申し上げましたような気持ちで、すごく気持ちが少しとげとげしくなっている、そんな気分があるのかと思います。だからこそ、家でお茶を飲んでいただき、静岡の美味しいカテキンいっぱいのお茶を飲んでいただき、ほっと一息ついてもらう、リラックスしてもらう、リフレッシュしてもらう、そんな効果もお茶にはあります。そんな今こそ、ぜひ皆さんにお茶を楽しんでいただき、そんな仲間同士のネットワークを築く、うちお茶時間、共有の仲間とシェアができる、そんなつながるキャンペーンになればと願っております。

そして、既にこのキャンペーンには、たくさんの有名人も含めて、賛同者がおりますので、ここで、モニターで簡単な1分ぐらいのメッセージ動画を広報課が作ってくれましたので、ご披露をしたいと思っております。

～動画再生～

【市長】

どうもありがとうございました。そして、キャンペーンに参加してくれた方、投稿してくれた方には、とっておきのプレゼントがあります。八十八夜にちなんで、先着 888 名の方に、オリジナルデザイン、非売品の静岡市産新茶 1,000 パック、これ特製であります、これをプレゼントしたいと思います。大変いい茶葉を使った、1,000 パックであります。

お届けするおいしい静岡市の新茶で、うちお茶を楽しんでいただきたい、キャンペーン、報道をよろしく願いいたします。なお、キャンペーンタイトルの「#うちお茶」には、うちでお茶という意味合いとともに、うちのお茶という意味も込めております。お茶農家さんやお茶屋さんには、自慢のうちの茶、うちの茶の新茶のPRの場としても活用していただき、全国のお茶好きの皆さんがつながるきっかけにしていきたい、ぜひ生産者やお茶屋さんも、このキャンペーンを利用、活用して、売上増進に向けてPRをどしどししていただきたいと思っております。このキャンペーンが、静岡市内だけではなく全国に広まる、そんなチャンネル、そんな窓口、プラットフォームにしていきたいと思っております。より多くの方々に、新茶シーズンを今年も感じていただくことにつながり、また自宅でお茶を飲んでいただくことが、静岡市内だけではなく、全国のお茶農家さん、お茶屋さんの応援につながっていきます。ここも連携、協力、支え合いというスピリットが不可欠だと思っております。皆さん、ぜひ応援をよろしく願いいたします。

なお、今、静岡市内に着任したばかりの記者の皆さんもいらっしゃるかもしれませんが、静岡市は、この数年来、タクシー会社さんの協力のもと、お茶タクシー、みどり色のお茶色のラッピングタクシーを走らせております。今、お茶タクシーに乗ったお客さまに対して、この静岡のティーパック、ティーパックで非常に飲みやすいかたちになっていますけど、この静岡市のお茶ということのプレゼン

トもしている最中ですので、お茶タクシーを見つけたら、ぜひ手を挙げて乗っていただきたいというふうにお願いいたします。市外からいらっしゃる方は、今、大変少ないんでありますけれども、やっぱり静岡に来たらお茶だなというイメージを持っている方も多いと思いますので、大変喜ばれているという報告をいただいております。

いずれにいたしましても、今年のゴールデンウィークはステイホームウィークであります。感染拡大防止のために、昨日も休業要請をいたしました。ぜひ市民の皆さんには、この大型連休は、自宅で有意義にそれぞれ過ごしていただきたいということを重ねて呼び掛けさせていただきます。よろしくようお願いいたします。以上です。

【司会】

ただ今の発表項目につきまして、ご質問のある方はお願いをいたします。NHKさん、どうぞ。

【NHK】

NHKです。市長、冒頭おっしゃった、静岡病院の職員に対する差別的な事案、これは、こういったこと、ぜひ起きてはならないということと呼び掛けたいと思いますので、どういった嘆かわしいことが起きたのか、もう少し詳しくお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】

例えば、タクシーに乗りづらくなるということがあるようです。ひとつひとつの事例は、これ、公言をすることにはあまりふさわしくないとしますので控えますけれども、全くいわれのないことで、大変切ない思い、つらい思いをさせてしまっているということをご理解いただきたいと思います。

【NHK】

ある程度の具体性がないと注意喚起がしづらいので、これ、あとで保健福祉長寿局のほうでご説明いただけますでしょうか。会見後で結構です。

【市長】

わかりました。

【NHK】

もう一つ、なんでも相談ダイヤルですが、埼玉で、軽症で自宅待機されていた方が2人亡くなるという事案が起きた中で、民間のコールセンターで、行政職員でもなく、医療職でもない方が、医療的な相談をちゃんと適切にアドバイスできるのか、市民の方は不安があつて、やはり接触者相談センターを使いたいという方もいらっしゃると思います。そういった方に対して、このダイヤルが本当に専門的なアドバイスができるのかどうか、市長からのメッセージをお願いします。

【市長】

そのところ、私も大変私も気をつけて制度設計をいたしました。だからこそ、電話の対応に、大変スキルを持った方々に今回お願いをすることにしたわけであります。それは、それぞれ医療分野とか、経営分野とか、専門職があります。その窓口としての機能を丁寧な電話での対応によって図ってくれる、だからこそ、1次対応窓口ですね。その方々が、その専門職の全てのことを専門的に知っているわけでは、記者のおっしゃる通り、ありません。ただ、1次対応窓口ですので、そういう専門的なことを深くお知りになりたい、その1次対応の方々からそこにつないでいただく、2次対応につないでいただくという機能を果たしますので、そういうなんでも相談窓口だということを、ぜひ報道していただきたいと思います。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

その他、いかがでしょうか静岡第一テレビさん、どうぞ。

【静岡第一テレビ】

静岡第一テレビです。うちお茶についてなんですが、今の動画は、何かどこかで公表される予定はありますか。

【市長】

いかがでしょうか。経済局長かな、統括監お願いします。

【農林水産統括監】

農林水産統括監の白鳥と言います。すいません、もう一度、ご質問を願いますか。

【静岡第一テレビ】

ごめんなさい。今流された動画なんですけれど、どこかで公開をされる予定はありますか。市民の皆さんも見たいのかなと思ひまして。

【市長】

そうですね。

【農林水産統括監】

現状では、今日、皆さまのお手元に「#うちお茶」キャンペーンのチラシが入っているかと思ひます。その QR コードが、カラーのチラシですね、みどり色の。QR コードがあろうかと思ひます。そちらか

ら、今回のキャンペーンのために立ち上げたホームページに入れますし、そこから Instagram と Twitter の投稿の様子がうかがえるようにつながっております。今回の、今、ご覧になってもらったそのものは、特別に編集したものですから、また別途用意をさせていただきます。

【広報課長】

恐れ入ります、広報課長です。ただ今の編集の映像につきましては、YouTube で、このあと皆さまに配信してご覧いただけるようにいたします。あと、記者の皆さまから、もしご要望があれば、配付のほうもさせていただきますので、またお声掛けください。よろしくお願いいたします。

【市長】

肖像権の問題とかあるかと思いますが、ぜひ第一テレビさんでもご活用いただければうれしいなと思います。どうもありがとうございます。

【司会】

その他、いかがでしょうか。どうぞ。

【日刊ゲンダイ】

日刊ゲンダイと言いますが。静岡の競輪の日本選手権について伺いたいんですけども、所長をはじめ、関係者一同と色々な話があったということなんですけど、これ、関係者一同というのは、色々な関係者がいますから、どういったところの関係者ということになるんですか。

【市長】

まず直営ですから、競技所、競輪の現場の所長をはじめ、市の職員、そこに関わっている民間事業者の方々、そして、直接お客さま対応をしている従事員の皆さん、そういうオール静岡競輪に携わっている官民の皆さんのことを、関係の皆様と表現させてもらいました。

【日刊ゲンダイ】

例えば選手とか、選手会なんてあるわけですけども、そういったところの話とかっていうのはあったんですか。

【市長】

もちろんいたしました。選手会の黒田会長とも、開催に向けて努力をさせていただいております。もう少し詳しく財政局長に補足をしてもらいたいと思います。せっかく日刊ゲンダイさん、このために来てくださったので、丁寧にご説明をお願いします。

【財政局長】

財政局長の川崎です。競輪場を所管している局長でございますけれども、日本選手権競輪、競輪界では一番高い、大きなレースということは十分承知しておりますけれども、そのために、私たち競輪公営競技事務所は、この無観客という中でどうにかできないかという模索はしてまいりました。ただ、開催につきましては、静岡市が責任を持ってその判断をしなきゃならないということで、今の非常事態宣言、そういった中で、都市間の移動ということになりますと、どうしても全国から選手を呼び込む、その関係者も来るという中で、いかにその都市間、県をまたいだ、市をまたいだ移動をなくして、感染拡大の可能性のあるものをなくしていこうということで、昨日も、各事業者に休業要請もした静岡市とありましては、やはり、この競輪については実施できないと、市長をはじめ、判断をさせていただいたところでございます。

【日刊ゲンダイ】

現在、佐賀県の武雄という所で記念競輪がやっているわけですけども、いろんな対策を立てた上で、きっちり開催しているわけですけど、そういうことをやろうっていうことは考えなかったんですか。

【財政局長】

こちらに来られて、選手は前検日を含めて7日間、選手の宿舎等で一緒に生活をするということになるものにつきましては、可能な限り、感染しない対策は十分考えておりました。ただ、その選手が県外から来るということになりまして、玉野でもあったんですけども、その方の親族の方が感染して、濃厚接触の疑いがある選手があった時に、やはりその実施については、取り止めがあったという事情もありまして、やはりそういったリスクもあると。宿舎でクラスターという感染が起こる可能性もありますし、そういった選手が、選手だけじゃなく、関係者の中から、濃厚接触者である可能性も含めているということも含めまして、あらゆる可能性の中で、やはり排除できないものがあるということで、今回中止をさせていただきました。

【日刊ゲンダイ】

すいません、例えば競馬ですね、JRAとか……

【司会】

すいません、市長の会見になりますので、実務的なことは、また後ほど説明をさせていただければと思います。よろしくお願いします。

【市長】

そうですね。再度、市長として、私も最終責任者ですので、悔しいです。記者さんと同じように、私も直前まで開催したかったんです。しかしながら、こういう苦渋の決断をさせていただいたのは、大変申し訳なく思っております。この悔しさを現場の皆さんと共有して、来年の12月のグランプリも開催

を決定した静岡競輪でありますので、どこかでこの思いをぶつけて、より充実した静岡競輪の開催につなげていきたいと思っております。お許しください。

【司会】

それでは幹事社質問のほうに移りたいと思います。幹事社さん、よろしくお願いいたします。

【静岡第一テレビ】

静岡第一テレビです。よろしくお願いいたします。昨日、市長が、詳しい休業要請、補償の内容を発表されましたが、今後、緊急事態宣言が延長されるなど、影響が長引く可能性ももちろんあると思います。第2段、第3段の補償を行うお考えはあるでしょうか。

また、もう1問です。臨時休校の期間が長引いています。そんな中、全国でオンライン授業や動画配信を始める動きが出ていますが、静岡市では、自宅での学習課題を各学校に任せていると思います。今後、市として、自宅での学習支援を行うお考えはありますか。よろしくお願いいたします。

【市長】

二つ質問をいただきました。まず休業補償の件ですけど、まずは5月6日までと期限を決めましたので、そこにクラスターを発生させない感染拡大防止で、静岡市はとにかく抑制をしていくということにまずは全力を傾けていきたいと思っております。また、その後の保障については、県内も含めて、全体の状況、5月6日の全国の状況、そんなことを勘案しながら判断をすることになろうかと思えます。そして二つ目の学校の件でありますけども、今、休校を余儀なくされております。休校中も学校教育を継続していくことはとても重要だと考えております。このため、現在、既にある静岡市のネット上の学習ポータルサイトを各学校が積極的に活用していくよう周知していくことで、子どもが自分の定着度を確認できるように、学習支援を行っていきます。

また、今後、休校も長期化する恐れがある中で、このサイトを改良し、子どもがネットで学校の先生に質問をできるようなシステムを構築していくとともに、私も苦手だったんですけど、理解が難しい算数とか数学などは、授業動画も作成をしていく予定であります。それぞれの学校がこれを活用することによって、子どもの家庭での過ごし方など、保護者の不安も学校に相談できるようになります。ネットを利用できる環境にないご家庭も、公教育ですから、あろうかと思えます。引き続き、電話や訪問での相談にも応じてまいります。さらに、今後学校が再開されれば、特に家庭学習で差がついてしまった子どもの学力を保障していくために、希望性の補充学習の機会を準備していく予定です。

【司会】

よろしいでしょうか。それでは、各社さんからのご質問をお受けしたいと思います。どうぞ。

【静岡朝日テレビ】

静岡朝日テレビと申します。今、幹事社の質問でありました休業要請について、細かく教えていた

だきたいんですけれども、昨日、静岡市は、この休業要請の業種の中に、飲食店を含められました。これ、例えば政府は、飲食店については、社会生活を維持する上では必要な施設ということで、スーパーや病院と同じく、閉めてはいけない施設ということで指定していますし、緊急事態宣言が先行した7都道府県でも、飲食店に休業要請しているところはないと思います。そうした中、なぜ静岡市では、こうした飲食店への休業要請を決めたのか。これがかえって、スーパーなどの食料品を販売するお店の混雑、今問題になっていますけれども、それを招く恐れもあると思いますが、その考え方を教えていただきたいと思います。

【市長】

まず一番大きな目的は、人と人の接触を8割方、静岡市内においても削減することです。そういう中では、やはり飲食店、居酒屋さんも含めて、どうしてもそういう状態を招きやすい。だから、感染拡大防止、密を作らないという点で、飲食店の多い商業都市でもあるので、静岡市は、この休業要請をお願いすることになりました。なお、テイクアウトであるとか、宅配であるとか、そういう営業活動は飲食店の方々にもお願いをしているところであります。ただし、お店自体で、お客さんを集めてというようなことについては、ご理解をいただきたい、それが私たちの思いであります。

これは、経済界の皆さまにも大変ご理解いただく。どうしても協力金の額とか、そういったことが前に報道されがちですけれども、とにかく感染拡大を防ぐんだ、人と人の接触を8割方削減をして、この1カ月で、日本全国、収束の状態に向かう、そういうために静岡市が何ができるかという点で、これは経済界の皆さんともいろいろ話をして決定したことであります。今日、夕方に、静岡商工会議所の酒井会頭も、このことにすごく注意をいただいている、そして、ご支援をいただいている、2人で、改めて、共同で明日から始まる経済界に対する休業要請ですので、経済界の代表たる会頭とともに、もう一度、呼び掛けの会見を開こうと、今、予定をしております。時間調整をしているところです。

【静岡朝日テレビ】

感染拡大を8割減らすっていうのは非常によくわかるんですけれども、感染が最も拡大している東京都でさえも、休業要請はせずに、午後8時までの営業短縮をお願いしている。これ、お酒を念頭に置いたものかと思うんですけれども、そうした中で、さらに踏み込んだこういった措置を飲食店にとるということは、例えば、プラスで休業補償があるということでは、他の産業とか他の業種から見ても、なぜ飲食店だけがって、ちょっとチグハグな感触を覚えられる業態の方も当然いるかと思いますが、そこまでさらに踏み込むのはどうしてなのでしょう。

【市長】

先ほど申し上げたとおりです。チグハグでもなんでもありません。やはり、3密の状態を避ける、それはスーパーマーケットにも、これから静岡でそういう状態が生まれたら、やっていかなければいけないと思います。そこは各店長も、そのへん工夫をしているということの報告も受けております。

しかし、東京の状況と静岡の状況というのは違いますし、やはり静岡市は、とてもすごく密集をした狭い中心街のエリアに飲食店がひしめているという中心市街地を形成しておりますので、やはりこのところを止めないと、感染拡大の防止の観点から、恐れがあると判断をしました。ぜひご理解をいただきたいと思います。

【静岡朝日テレビ】

わかりました。ありがとうございます。

【司会】

SBSさん、どうぞ。

【SBS】

すいません、今の質問と若干重なるところもありますが、飲食店、県の対象には入っていません。そのあたりのズレというか、そのへんはどう受け止めてらっしゃるでしょうか。県の対象と、市の対象で、飲食店がずれていると思いますが、そのあたりはどのように受け止めて…

【市長】

つまり、特措法上の県の休業要請のところ、横出して、市が独自に、ここをカバーしたということで、昨日も申し上げましたけども、裾野を広げたということでもあります。

【SBS】

もう1点、お願いします。広野の公園の、だいぶ人混みというか、そういう所があると思いますが、静岡市としてどのように対応をしているか、あるいは、その対応で解決するのかどうか、教えてください。

【市長】

これも閉園をするつもりであります。

もう具体的に期間が決まっているんですね。ぜひお伝えください。

【農林水産統括監】

農林水産統括監の白鳥です。広野海岸公園につきましては、明日、4月25日から5月10日、日曜日まで、公園の利用を一時休止とさせていただくことを、昨日、公表させていただいたところでございます。

【司会】

よろしいですか。その他、中日新聞さん、どうぞ。

【中日新聞】

中日新聞です。先ほど、NHKさんもお伺いしていた市立病院の話なんですけど、冒頭で市長が、静岡病院の皆さんからも、実は、医療従事者家族への偏見があるという報告があり、通園、通学が拒否されている、医療の現場を離職する事態に発展しているというお話がありましたが、この通園、通学が拒否されているというのは、医療従事者のお子さんの場合ということでしょうか。

【市長】

そうです。

【中日新聞】

またその医療の現場を離職する自体というのは、これも静岡病院でのお話ということですか。

【市長】

そうです。

【司会】

すいません、補足をさせていただきます。

【保健福祉長寿局長】

冒頭で市長からありました、離職とかそこらへんの話は、全国的なところで報告されている話で、これ、市立病院の方での話ではありませんので、申し添えておきます。

【中日新聞】

すいません、情報が錯綜していると思うんですが、その通院、通学が拒否されているのは、どちらの話なんですか。

【保健福祉長寿局長】

全国的な事例としての報告ということです。

【中日新聞】

そうしますと、今、市立病院から報告されている事例というのは、どんな事例が、可能な限りでわかりますでしょうか。

【市長】

先ほど、お茶タクシーを話題にしたばかりだったので、例で挙げたんですけども、タクシーが静岡病院、これほどこの病院も同じく、看護師さん、夜勤とか多いですね。そういった中で、少しその

点でギクシャクしていると、乗りづらい環境になっているということは、静岡病院に報告をもらっています。

【中日新聞】

ありがとうございました。

【司会】

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。NHKさん、どうぞ。

【NHK】

すいません、NHKです。市の情報発信について、私、度々お尋ねしていますが、やはり新型コロナも含めて、あまりにも不正確な情報が相次いでいる状態が止まってないと思っています。先週でしたか、市長が体験された除菌消臭のミスト。これ、消費者庁が先月の段階で、空間除菌剤に新型コロナの不活性化効果はないということは、一般に向けて情報を注意喚起されていて、私、これが疑問に感じて、すぐに管財課と広報課に、これ、何を根拠に新型コロナウイルス感染拡大対策と謳っているか問い合わせましたら、すぐ修正、訂正がされました。私が言わなかったら、これ、あのまま報道されて、あれは新型コロナ対策になると思って、あそこに列ができるという状態ができていたのではないかと思うと、本当に怖い思いがするんですが、どうしてこういった医学的なことについて、一般的に出されている情報も確認せずに、ああいった情報が発信されてしまったのでしょうか。

【市長】

これは、静岡市に本社を置く民間企業の皆さんが、医学的な、専門的な見地からは新型コロナウイルスに本当に防止できるかどうかというのは、まだまだ検証が必要だということでもありますけども、しかし、除菌効果があるという研究データもあるということなので、とにかく、こういうことで少しでも安心、安全にということでの厚意で、市役所にぜひ設置してほしいと。マスクの供与をしていただいたり、お菓子の供与をしていただいたり、いろんな民間企業からの申し出があります。

それは、なるべく私たちは受けていこうという、おおらかな気持ちの中で、今回、本当はだから、そういうふうに厳密に言ったら、これもできない、あれもできないということが行政の常でありますけども、それはやはり、そののところを乗り越えてやっていこうというのが私の判断であります。

【NHK】

ハル・インダストリさんも、溶液が、インフルエンザを浸したら不活性化効果があるということは確認されているけれども、噴霧することで殺菌できるということは何も確認できていないし、管財課にも、新型コロナウイルス対策としては発表しないでほしいと要請されていたと聞いております。管財課はそれを承知の上で、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにと、わざわざリリースしたと聞いております。どうしてこんなことが起きるのでしょうか。

【司会】

そのへんの情報発信につきましては、少し補足をさせていただければと思います。

【戦略広報監】

すいません、戦略広報監の柴山です。各セクションから、各局から情報発信が行われている都合上、そういった広報的な、言っていること、悪いこと、言うべきこと、言わないほうがいいことという判断のところは課題があるということは十分承知しておりますので、そのあたりは、広報の見地から、きちっと皆さんに情報発信ができるように、今後、整理してまいりたいと思いますので。これまでのことにつきましては、大変いろいろ不備があったところはお詫びしたいと思います。今後に関しては、きちっとやれるように態勢をとってまいりたいと思いますので、ご理解ください。よろしく申し上げます。

【NHK】

わかりました。ただ、もう1件あります。市長、前回の会見で、また不正確な情報を発信されました。無症状の人から感染する可能性は極めて小さいという4月3日のメッセージについて、それを改めるという説明をする時に、4月7日に、国の対策本部の方でそういった新たな見解が加わったから改めたと前回おっしゃいましたが、実際には、4月7日に改める前の文章、基本対策方針においても、無症状からの感染についてはしっかり指摘されています。

もっと言えば、2月28日の段階で、国の専門家会議からも同様の見解が出ておりました。どうして、わざわざ情報を曲げてまで、新しい情報が出たから見解を変えたんだと、まるでそれまでの市長の見解を正当化するかのように発信をされたのでしょうか。

【市長】

私の言い方が誤解を与えてしまったのであるならば、お詫びを申し上げますけども、しかしながら、国の専門家会議でそういう方針の変更があったという報告のもとで、これからはこういう言い方に直そうと、それぞれ、国も、我々も、本当にこの新型コロナウイルスについては、初めて遭遇することで、本当に試行錯誤、新しい情報をやりながら、PCR検査にしても何にしてもそうですけども、とにかく走りながら考えていくということでもあります。

そういう意味では、本当に、記者のおっしゃるような 100 パーセントということについては、なかなか追いついていかないということは、本当に申し訳なく思っておりますけど、しかし、それを乗り越えて、今は本当におおらかな気持ちで、連携、協力、そして支え合いをしていきたいということを、私はお願いをしたいと思います。

【NHK】

国があその時点で新しい見解を出したのではなくて、2月24日の専門家会議で。

【司会】

すいません、そのへんの事実確認は、また後ほど、当局のほうでやらせていただきたいと思います。

【NHK】

いや、市長の情報発信に私は疑問を持っていますので、ここは市長の見解を伺いたいです。国は前からホームページなどでもそのように公表しています。無症状や軽症の人であっても他の人に感染を広げる例があると。そこは2月24日の段階で、少なくとも私、ホームページ上で、厚生労働省のページで確認しております。市長は、普段、国とも機密に連携しているとおっしゃいながら、どうして、こうした基本的な文章を、市長および部局のほうで把握されていないのでしょうか。

【市長】

先ほど申し上げたとおりです。

【NHK】

申し上げたとおりとおっしゃったのは。

【市長】

先ほど申し上げたとおりです。

【司会】

申し訳ありません。そこは後ほど、当局とやり取りをさせていただければと思います。

【NHK】

私も、人間ですからミスがあるのはいいんですけれども、市長が以前、事実を伝える報道に対してすら、これで静岡市が良くなるならいいけれども、これを伝える意味ってなんなんだ、目的ってなんなんだと、威圧的に、事実を伝えることを萎縮させるような圧力をかけてこられたから、こういったことについて強い問題意識を持っております。事実をないがしろにされているんじゃないですか、市長は。

【市長】

真摯に受け止めたいと思います。

【NHK】

また何かありましたら、こういったことを伺いますので。

【司会】

その他、よろしいでしょうか。どうぞ。

【共同通信】

共同通信と申します。休業要請の飲食店のところで、一つお伺いしたいんですけれども、この休業要請対象の飲食店で、既にテイクアウトなど、もともとお店の中で提供してたところが、テイクアウトにも乗り出しているという状況も出ていると思うんですけれども、今後、そういったお店に対して休業要請をする場合は、テイクアウトも含めて休業要請をするということですか。それとも、テイクアウトはそのままということですか。

【市長】

そうです。そのところ、きちっと区別化しております。大きな目的は、お店に集まっていたいて飲食を共にするという状態を防止することが休業要請でありますので、テイクアウトは、むしろ安全管理をした上で、お願いをしていくという考え方です。

【共同通信】

そうしますと、その休業要請対象の飲食店でも、休業要請対象期間、テイクアウトで提供をすることは可能で、さらに補償金というか、協力金もいただけるという理解でいいですか。

【市長】

その通りです。

【共同通信】

ありがとうございます。

【司会】

それでは、時間もまいりましたが。

【NHK】

今日、超過していますね、市長の発表。もう一つお願いします。

今日、市長の発表が15分を超過していますので、もう一つお願いします。

【司会】

すいません、では市長、1問だけよろしいですか。

【市長】

どうぞ。

【NHK】

すいません、新型コロナとは離れますが、幼保支援課の対応についてです。静岡市内の保育園で、保育士の方の待遇改善するための市からの補助金が、実際には保育士さんに渡っていなかったことが確認されました。これについて、保育士さん、非常に、園児たちのために頑張ってきたのに、市がそういったこともチェックしなかったこと、裏切られたという、非常に辛いお気持ちをおっしゃっています。市長は、この補助金についてどういう位置付けで、こういった待遇改善金が本人のもとに行き渡らないという問題提起はかねてからされていたのに、どうしてこういった状態が放置されたのか、市長のご見解をお願いします。

【市長】

これは、駿河区に立地する民営の認可保育所のゼリービーンズ保育園のことを指しているかとは思いますが、この補助金につきましては、私立、民間の保育所の保育士さんにも、公立と同じように、長い間勤めてもらうという目的のために、待遇改善のために、市が補助金を、これもいろんな団体から要望を受けて、そして、議会とも議論をして、とにかく公私格差を少しでもなくしていこう、そして、企業を下支えをしていこうという公的な施策であるわけでありまして。現場での保育を担う保育士の対応をより良いものにしたいという、重要な子育て支援の事業でありました。それが、現場において保育士に届いていないということとすれば、私は大変残念に思っています。現在、所管課において事実確認をした上で、私のところに報告があります。補助金の使い方として誤ったことが正式に判明した場合、改めて公表をさせていただきたいと思っております。

【NHK】

保育士さんからの問い合わせに対して、一時期、幼保支援課が、私の取材に対してもなんですが、保育士に遡って支給せずに、市に返還させて、それに終わりにするというような、まるで問題はなかったかのような対応を説明されてたことがあったんですけども、これは改めると、確実に保育士さんに遡って支給するということがよろしいでしょうか。

【司会】

所管課からお答えさせていただきます。

【子ども未来局次長】

子ども未来局次長の橋本と言います。今回の件について、市のチェック体制が不十分であったことが一つの原因であるということで、責任を感じております。また、今回の件で、現場の保育士さんの対応に、もし不備があったとすると、改めたいと思っております。今後は丁寧に対応をして、できる限りお

渡しした金額については、もとの職員に支給されるように、市として働きかけていきたいと考えております。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

それでは、以上を持ちまして市長の記者会見を終わらせていただきます。

次回は5月13日、水曜日の予定となっております。本日はありがとうございました。